

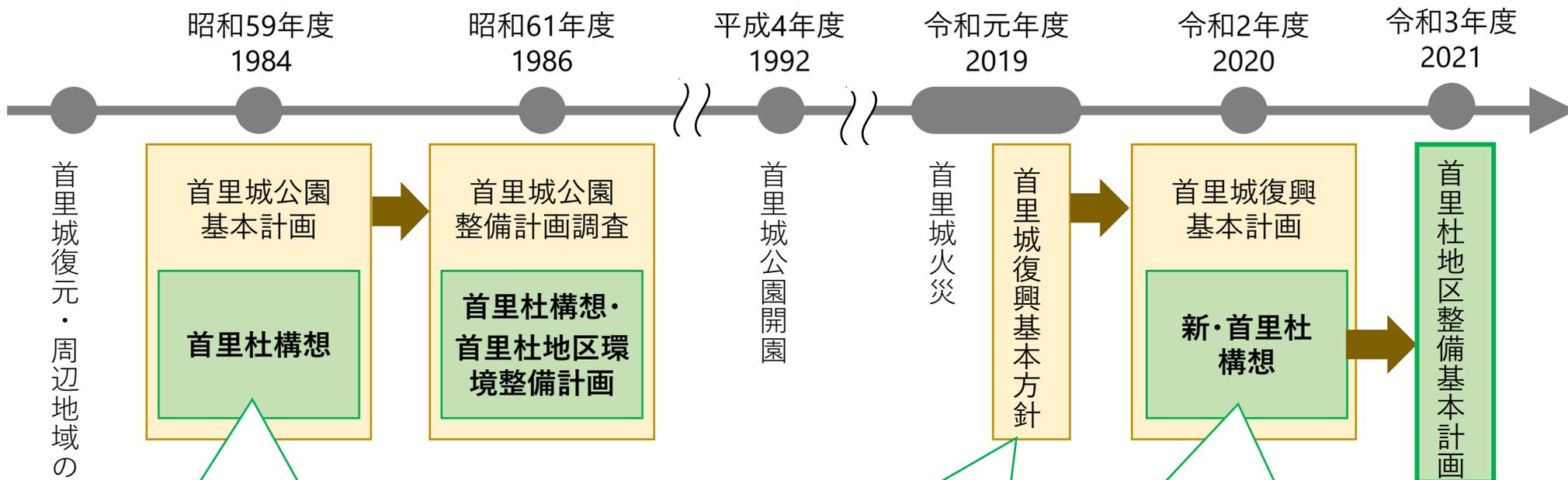
首里杜地区整備基本計画検討委員会

第 1 回

【資料 2】首里杜地区におけるこれまでの取り組みと課題

1. 「新・首里杜構想」策定までの経緯
2. 「首里杜構想」（旧）の実現に向けた取組状況
3. 「新・首里杜構想」の内容
4. 「首里城復興基本計画」策定中に示された意見

1. 「新・首里杜構想」策定までの経緯



首里城復元・周辺地域の歴史的まちなみ保存の気運

「首里杜構想」本文（抜粋）

「首里杜構想」は、弁ヶ嶽御嶽を頂点に、真嘉比川と金城川の両水系に囲まれた範囲、及び流域と分水嶺一帯を、古都首里の歴史的発展を特徴づけた風土環境としてとらえた。首里の歴史的環境を支える地形の状況は、今も昔も基本的に変化はなく、長い歴史を越えて受け継がれてきた。そこで首里杜構想では、首里城を中核とする一帯を首里杜地区、これをとりまき2本の水系が骨格となった首里のまち一帯を首里歴史的風土保全地区として、今後の首里のまちづくりに一つの方向性を示すと同時に、首里城公園の位置づけを明らかにするものである。

「6『新・首里杜構想』による歴史まちづくりの推進」本文

首里城を中核とする一帯（首里杜地区）は、世界遺産である首里城跡を保護する緩衝地帯（バッファゾーン）となっている。

今回の首里城復興にあたり、古都首里のまちづくりの方向性を示した「首里杜構想」を社会環境の変化や時代のニーズを踏まえて見直すことにより、首里杜地区が琉球文化を体現できる場となるよう、地域住民や関係機関と連携し、下記の取り組みを進める。

「策定の意義」（抜粋）

首里杜構想は、...首里のまちづくりの方向性を示したものであり、これに基づき35年以上にわたり取組が実施されてきた。

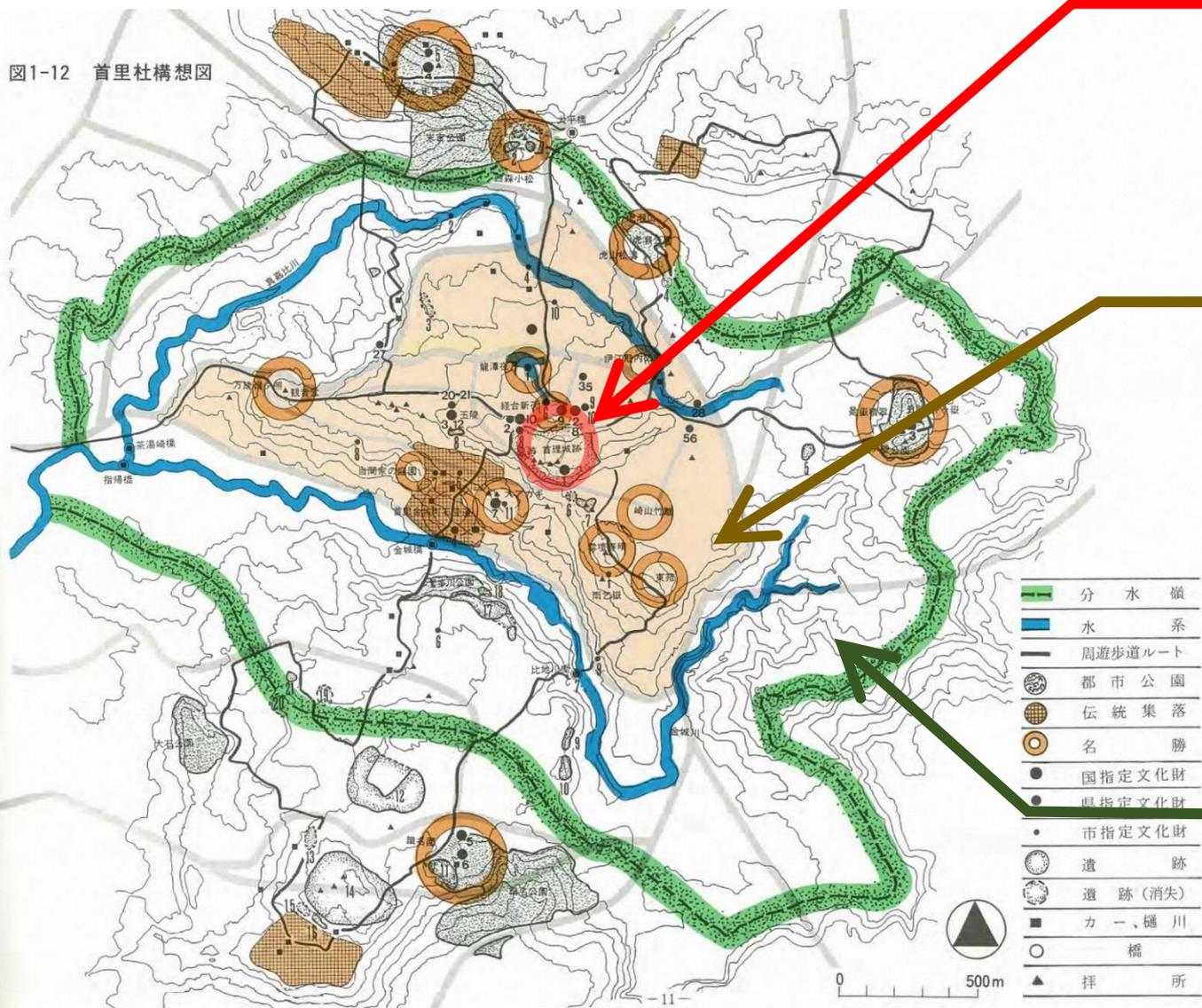
このような中、令和元年10月31日未明に発生した火災により、首里杜構想の中核である首里城正殿等が消失した。一方で、この消失は、首里城から派生し、それぞれに受け継がれている私たち沖縄の文化を改めて意識する契機ともなった。

この機を捉え、首里杜構想で残された課題及び社会状況やニーズの変化に対応するため、新・首里杜構想を策定し、新たに50年、100年後に伝承していく歴史、文化的な首里杜地区の形成に取り組んでいく。

2. 「首里杜構想」(旧)の実現に向けた取組状況

首里杜構想の特徴 (三重構造)

図1-12 首里杜構想図



①首里城公園(中心)

- ・国営公園 (4.3ha) H31.2全園開園
- ・県営公園 (13.1ha) 概ね計画通りに整備
- 文化財課：円覚寺跡三門復元 (整備中)
- 都市公園課：中城御殿跡復元整備 (計画段階)

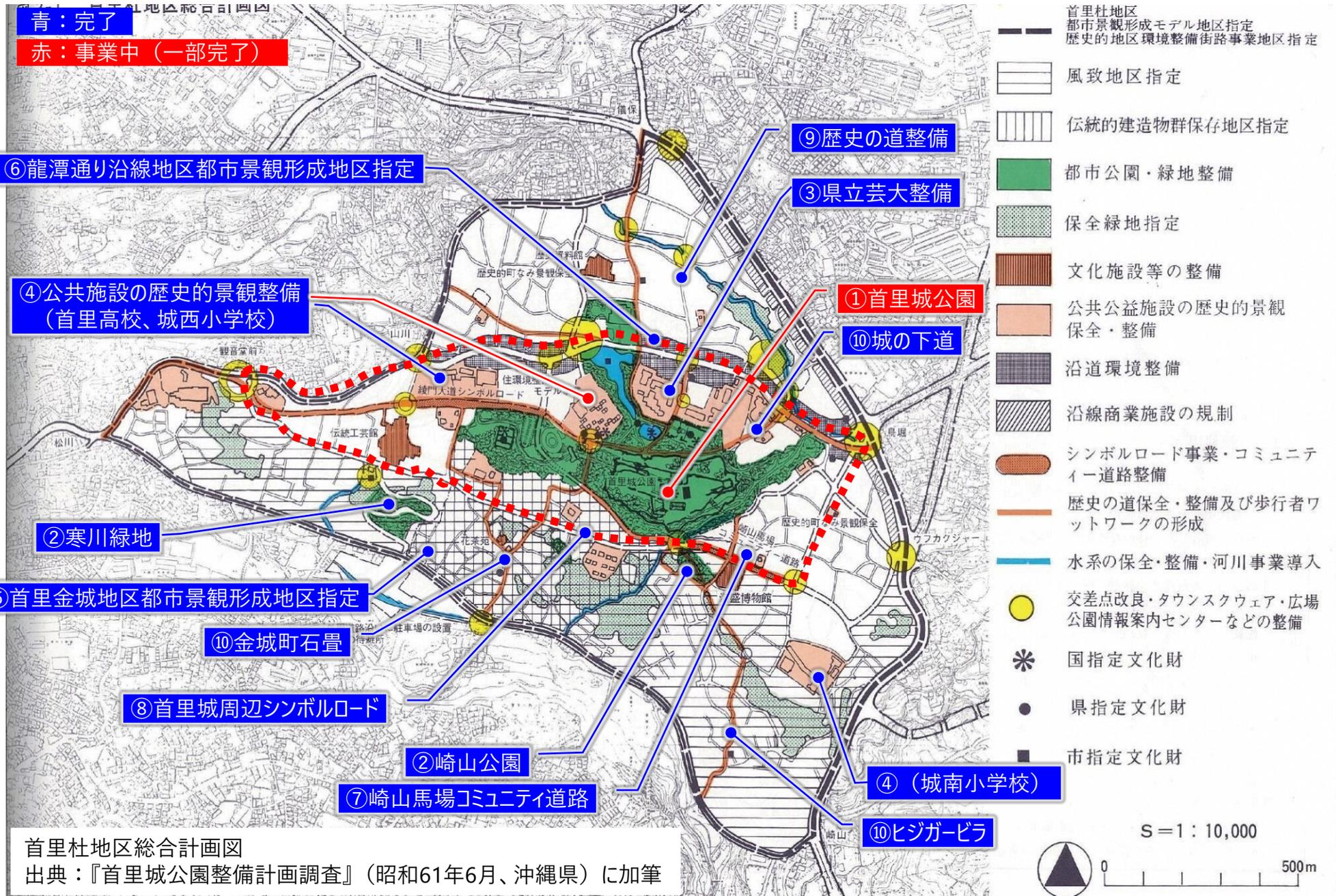
②首里杜地区

- ・歴史的なまちづくりという方向性が継承され、各種計画や事業に生かされている。
- ・「首里杜地区環境整備計画」で提案されている事業のうち、歴史の道や主なカーの整備は概ね実現 (事業中含む)。
- ・まちなみ保全是一部区域で取り組み中。
 - 龍潭線街路事業、景観形成地域指定
- ・首里杜地区内の首里八景は、概ね基盤整備済み。

③首里歴史的風土保全地区

- ・首里杜地区外の首里八景は公園用地として保存してきた。
 - 虎瀬公園、弁ヶ岳

2. 「首里杜構想」(旧)の実現に向けた取組状況



2. 「首里杜構想」(旧)の実現に向けた取組状況

※数字は、前ページの図面と対応。数字が振られていないものは、首里杜地区総合計画後に提案実施されたもの。

テーマ	成果(完了)	成果(取り組み中)	検討課題など
文化財及び文化施設の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園整備(寒川緑地・崎山公園)② ・県立芸大環境整備(一部移転)③ ・公共施設の歴史的景観整備④ ・樋川・共同井戸の整備(金城大樋川など) 	<ul style="list-style-type: none"> ・首里城公園の整備① ：国営区域(正殿等整備) ：県営区域(中城御殿、松崎馬場、円覚寺の整備) ・首里染織館suikaraの整備 ・文化財の保存と整備(伊江殿内庭園・弁ヶ嶽) 	<ul style="list-style-type: none"> ・御茶屋御殿の復元の検討 ・文化財の保存・活用の考え方の整理
景観形成	<ul style="list-style-type: none"> ・都市景観形成地域の指定(金城地区⑤、龍潭通り沿線⑥)※一部完了 ・景観賞などの啓発活動 ・世界遺産の緩衝地帯の指定 ・景観整備機構の認定(首里まちづくり研究会) 	<ul style="list-style-type: none"> ・首里八景などの景観の保全 ・歴史的まちなみ景観保全(首里三箇、北方地区)※三箇(崎山、赤田、鳥堀)、北方(当蔵、大中、池端、儀保) 	<ul style="list-style-type: none"> ・環状線沿いや斜面樹林地における建物等の高さ制限(首里城からの眺望景観の保全) ・歴史的な緑の斜面・稜線の確保(緑地保全地区・風致地区の指定)
交通環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・崎山馬場コミュニティ道路⑦ ・首里城周辺シンボルロード⑧ ・歴史散歩道の整備(赤平当蔵線など)⑨ ・沖縄都市モノレールの開通 ・首里城下町線(バス)の運行 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的街路の整備(金城町など) ・龍潭通りの街路整備 ・大中細街路 	<ul style="list-style-type: none"> ・エリア全体の交通対策の検討 ・綾門大道の歴史的な整備の実現
周遊観光	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊歩道の整備(金城町石畳道、ヒジガール、城の下道など)⑩ ・史跡・旧跡、植物等の解説板整備 ・市民ガイド等による散策ツアー ・首里城復興モデルコースの提案 		<ul style="list-style-type: none"> ・首里城と周辺を有機的に周遊する仕組みづくり

3. 「新・首里杜構想」の内容 首里城復興基本計画 令和3年3月29日 沖縄県

① 【理念】及び【方針】

理念

首里城正殿をはじめとする首里城公園全体及び城下町として発展した首里杜地区を改めて一体的なものとしてとらえ、歴史、文化的遺産の復元整備とともに歴史的風土環境の保全など、県民が首里杜地区を沖縄の歴史、文化を体現する空間として共有し、これを後世に残していく。

方針

1. 中核をなす首里城及び外苑の一群の文化資源を保全・整備するとともに、文化を育む拠点の充実を図る。
2. 古都首里の歴史的なたたずまいに配慮した景観形成とともに、住みやすく魅力的なまちづくりを進める。
3. 総合的な交通対策により、暮らしと観光が両立した歩行者中心のまちづくりを進める。
4. 地形、地質、水系、植生等を基盤に形成された歴史的風土の環境を保全する。
5. 行政機関及び地域住民、教育機関、関係団体等が連携して推進体制を構築し、整備基本計画の策定、実施に取り組む。

3. 「新・首里杜構想」の内容

②首里杜地区範囲



(参考) 旧整備計画の方針との対照

(S61) 首里杜構想の方針

首里城公園整備計画調査

①地形、地質、水質、植生等を基盤にして形成された首里の**歴史的環境の範囲**を把え、点在する文化財と自然環境－**歴史的風土を一体として保全する**。

②歴史的環境の中で進行する各種の都市開発事業は、首里の**歴史的な町なみや風土**と調和することを原則とし、可能な限り地形、水系、植生、景観を保全・回復する。

③歴史的都市の骨格を形成する**首里城をとりまく枢要な拠点**は、重点的に保全整備し、特に首里城からの眺望を確保する。

④点在する**文化財**やこれをとりまく歴史的風土を巡る**周遊歩道を整備**し、歴史的要素の連続化を図る。

⑤**首里城跡公園の整備**に関連して、首里城と密接な関係を持つ地区については、集約的な**歴史的、文化的なまちづくり**を推進する。

風土環境の保全

歴史的
まちなみ

外苑の
景観資源

周遊
ネットワーク

文化財・
拠点整備

(R2) 新・首里杜構想の方針

首里城復興基本計画

1. 中核をなす**首里城及び外苑の一群の文化資源を保全・整備するとともに、文化を育む拠点の充実**を図る。

【追加】住環境

2. 古都首里の**歴史的なたたずまい**に配慮した**景観形成**とともに、**住みやすく魅力的なまちづくり**を進める。

【追加】交通

3. **総合的な交通対策**により、暮らしと観光が両立した**歩行者中心のまちづくり**を進める。

4. 地形、地質、水系、植生等を基盤に形成された**歴史的風土の環境を保全する**。

【追加】参加・連携

5. 行政機関及び地域住民、教育機関、関係団体等が**連携**して推進体制を構築し、整備基本計画の策定、実施に取り組む。

4. 「首里城復興基本計画」策定中に示された意見

①委員会等

	キーワード	意見
景観・文化	周遊	<ul style="list-style-type: none"> 歩いてまわることで歴史が生きていることを体感できるまちづくりが望ましい。道や石垣などの歴史的基盤を守ることで特徴がでる。 望ましい周遊のありかた、観光動線のあり方も計画にいらしてほしい。 魅力を高め回遊性を高めるとはどういう観光スタイルをイメージするのか。歩かせるとしたらその目標をどう立て、どう達成度を測るのか。
	新たな取り組みの位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> 旧首里杜構想のやった、やり残したという単純な整理ではなく、新しい理念のもとに整備をしなければならないことを整理してはどうか。 情報発信の視点が弱い。ICTの活用、また展示品それぞれのストーリーを伝えられるような計画がほしい。 提案：①首里のまちと首里城をつなぐ存在として、歴史的な道を重点的に整備する。できれば歩行者専用で、路面整備に加え沿道石垣、小広場を整備。／②文化財的な拠点の整備とともに、周辺の家並みなどを一体的に整備する。／③主要眺望点からの景観を視座に、八景や優先的に整備すべきまちなみゾーンを位置づけ、整備方針を作成する。
	文化財の捉え方	<ul style="list-style-type: none"> 首里の埋蔵文化財、遺跡の新情報の公開・活用が必要。時代の幅も広がっている。負の遺産も取り上げるべき。 御茶屋御殿、円覚寺の位置づけやその整備について明確にすべき。首里城一点集中型ではなく魅力資源を複数整備して回遊する形にしたい。
交通	小スケール交通	<ul style="list-style-type: none"> 小スケールの公共交通機関を組み合わせた歩けるまちづくりが必要
	目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> どういった交通環境を目指すかのビジョンが必要。交通施策を計画に落とし込むのなら、目標とする水準を定めるべき。コロナで交通量が減った体験を通じ、目指すレベルを共有できるのではないか。 交通課題は原因をしっかりと把握する必要もある。
	観光と生活の両立	<ul style="list-style-type: none"> 観光交通の制限は可能だが、付随して住民も制限を受ける。どこまでやるか折り合いをつける必要がある。 高齢化などの地域課題を踏まえ、住民の福祉の面からも交通問題の検討を。
	EBPM (根拠に基づく施策立案)	<ul style="list-style-type: none"> 交通状況の把握については今後データ収集を期待。重要なのは住民がどの程度を目指したいかという感覚を明確にすることであり、それを数値に置き換えることで道路管理者が施策を立てることができる。
体制	計画策定への住民の参画	<ul style="list-style-type: none"> 観光の回遊性を高めることは住民の負荷にもつながる。一方的に受忍させられている意識にしないためにも、住民が意思決定に関与し、主体性を持つ形が必要。 交通課題の解決には、行政が住民に案を提示するのではなく、最初の段階から住民と一緒に考えることが必要。
	計画推進のための体制	<ul style="list-style-type: none"> 連携体制は計画期間だけで終わるものではなくずっと続き、自走するものであるべき。当座の体制は整えた上で、長期的継続的に体制のあり方を考えるべき。 今後設置する協議会構成に関して、観光危機管理や防災に関する主体も必要ではないか。 連携体制は、有識者が突出する形ではないほうがよい。NPOや専門家集団も含めた「団体等」を追加すべき。 住民の暮らしの視点からも、まちづくりは県と那覇市との連携が不可欠。

4. 「首里城復興基本計画」策定中に示された意見

②地域からの提言（「首里杜地区まちづくり団体連絡協議会から首里城復興基本計画および那覇市のまちづくりへの提言」から）

	キーワード	提言の具体的内容
景観・文化	本物指向の整備	<ul style="list-style-type: none"> 首里城公園及び首里杜地区内の公共事業における、本物指向の整備
	首里八景	<p>【首里八景の文化的景観に配慮した整備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 龍潭から首里城を望む景観（世持橋の再現、龍潭周辺樹木整理） 崎山通りの無電柱化、観音堂からの景観を阻害する電線の移設 弁之御嶽までのアプローチ道路の石畳化、崎山竹林の再現、ニシムイからの眺望の確保
	風格ある小路	<p>【城下まちと一体となった景観づくり】</p> <ul style="list-style-type: none"> 首里城周辺スーヅグワの石畳化や屋敷囲い石垣、緑化の推進
	水と緑	<ul style="list-style-type: none"> 首里歴史的風土保全地区における大規模開発の抑止、自然環境の保全、修景 水と緑あふれる潤いの感じられる環境整備
	歴史文化資源の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> 首里地区の歴史・文化資源の実情に応じた整備、周遊環境の整備 文化財を活用した行事や地域利用の促進
	伝統産業の保全・活用	<ul style="list-style-type: none"> 伝統産業に触れる環境として、歴史的・文化的まちづくりの推進となるような拠点の整備 県芸や首里高校、伝統産業事業者と連携した、地域独自のまちづくり
	ICTの活用	<ul style="list-style-type: none"> 訪問客への首里城周辺の情報を提供する仕組み VR・ARを活用した歴史文化の「体感」と、そのための拠点整備
	実現に向けて	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄振興計画等の財源に基づいた段階的整備 面的に周遊できる実施計画の策定
交通	観光と地域課題の両立	<ul style="list-style-type: none"> 観光バス駐車場の代替地の確保 観光課題と地域課題の両方を解決するための交通特区の導入検討 観光客も地域住民も使用可能な小型で小回りがきき、歩行者とも共存できる、自動運転等のローコストなモビリティのモデル地域 歩行を前提とした、歩道や緑陰等の整備計画
	EBPM （根拠に基づく施策立案）	<ul style="list-style-type: none"> 首里の観光について、十分な検討と科学的数値の積算（適正な入域観光客数の想定）が必要 渋滞の原因の調査 自治の力で解決できるような手法の検討 官民協働による課題解決を目指すための行政側の制度の柔軟な運用の議論